

2014年  
12月11日  
木曜日

嚴 廷美 准教授（社会言語学）

# グローバリズムの狭間で

今日はグローバリズムについて少し考えてみたいと思います。今更グローバリズムについて語るのは陳腐で面白くないことのようにも思われますが、今日はあえてグローバリ

ズムの負のところに「明」を当ててみたいと思います。誰しものがこの世の中はグローバル社会だし、各自グローバル化した国際人としての資格を身につけるべく、英語の勉強に励んだり、海外（特に英語圏の国々）へ留学やせめて旅行にも出かけるなどして世界のグローバルな空気を吸わんと必死になっているように見えます。もちろんそれが悪いとは思いません。しかし、今日はグローバル化（イコール国際化）について立ち止まって考えてみましょう。国際化は一体何でしょうか。私に言わせればグローバル化は強者の経済的生産性を高めるための市場の拡大から始まった地球レベルの見えない戦争、それに加担させられた私たちは

あれよあれよという間にその戦争に勝つための武装をすることを強く求められているわけです。

ほんの数十年前までも日本は国民の多くが（経済的に）ミドル・クラスだと感じ、終身雇用制による安泰な仕事保障され、いろんな意味で選りすぐりの豊かな社会であったように思います。しかし、今は日本人の6人に1人が貧困層であり、OECD諸国で貧困率が4番目に高いそうです。貧富の格差が広がりがりつつあります。若者が昔のように割と容易く仕事にありつくこともできない厳しい現状があります。このような状況は益々ひどくなっていくだろうと予測できます。なぜなら、グローバル化とともに私たちは世界の人たちと平たい地球上に一列に並ばされ、職業人間としてのスペックが競わされるからです。このような地球規模のグローバルな競争に勝ち得ない人たちは「負け組」「ドロップ・アウト

組」と呼ばわりし、「勝ち組」の勝戦を讀めるわけです。所謂「負け組」の人たちは社会や家でも居場所を見つけられず、その果てしないむしゃくしゃした気持ちを何の関係のない人々にぶつけてしまわざるを得ないでいるのです。最近頻発している通り魔事件や放火事件などは、このような現代社会の抱えている病のシンptomなのかも知れません。また、日本では毎年3万人ほどの自死者や100万程のうつ病の人がいると言います。今は「うつ」という言葉は流行りの言葉のように周りに転がっています。実際うつ病で苦しんでいる人も周りにいる訳です。

では、「負け組」と違って、「勝ち組」の人たちはむやみに幸せでしょうか。私にはそのようには見えません。グローバル競争を勝ち抜いた彼らはその平準化の中、「自分らしさ」を探し求めてもがいているのです。グローバルの列車に乗り遅れるなど

言われながらまた一方では自分らしく生きるとも言われ、いわば「平準化」と「自分らしさの個性化」のはざままで苦しんでいる人も多いと思います。昨今、SNSの普及などで地球単位のたくさんネット上の友たちが持ってもその心の孤独から逃れているわけでもあります。Lifeなどのネット上の会話が慣れてしまいい、生の人間との対話が難しいなど心の空洞はますます広がるばかりなのではないでしょうか。ここで、私たちが向かおうとする先には何が待っているのか、訳も分からず遅れまいと前走って走っている人たちについて必死に走ってみたら先は崖だったということがないように、たまには立ち止まって考えてみましょう。私はどの道に行きたいのかを。

■

■

■